

## 第 1 回小千谷市総合教育会議 会議録

日 時	令和 4 年 10 月 24 日 (月) 15:00~16:03	会 場	市役所 403 会議室
出席者	・大塚市長 ・松井教育長 (教育委員) ・鈴木委員 ・新谷委員 ・和田委員 ・吉井委員 (6名)		
欠席者	なし (0名)		
事務局	(学校教育課) ・長谷川課長 ・林課長補佐 ・岩田管理指導主事 ・上村管理指導主事 ・佐藤係長 (生涯学習課) ・佐藤課長 ・近藤課長補佐 ・佐藤スポーツ振興室長 (企画政策課) ・真島課長 ・高橋課長補佐 ・増川係長 ・佐治主査 (12名)		
傍聴者	なし		
議 題	(1) 学校の働き方改革推進のための行政の取組について (2) 小千谷の学校教育について		

発 言 者	発 言 内 容
	<b>1 開 会</b>
大 塚 市 長	<b>2 あいさつ</b> 本日は主に 2 つのテーマを取り上げる。1 点目は「学校の働き方改革推進のための行政の取り組み」についてです。教育委員会が策定しました、働き方改革推進のための方針に従い、各学校で業務負担軽減のための現状と今後の取り組みについて報告を受け、意見交換をさせていただきたいと考えている。 2 点目の「小千谷の学校教育」については、教育委員の皆様より、私の任期が残りあと 1 ヶ月程になりましたが、私の教育に対する思いや願いについて、お話をお聞きしたいとのご要望がありましたので、少し私が考えてきたこと、取り組んできたことをご紹介します。会議の趣旨に沿って実りのある意見交換の場となるようお願い申し上げます。
事 務 局	ここからは、本会議の議長である大塚市長より進行をお願いしたい。
大 塚 市 長	<b>3 議 題</b> (1) 学校の働き方改革推進のための行政の取組について 議題 (1) について、事務局より説明をお願いしたい。
岩田管理指導主事	(学校の働き方改革推進の状況について説明) 学校では時間外勤務が過労死ラインを超える職員が大変多いことが問題となり、小千谷市では令和元年度にその対策の実行委員会を立ち上げ、「働き方改革推進のための方針」を策定し、令和 2 年度から取り組みを開始して今年で 3 年目となる。基本的には国が示す、時間外勤務を月 45 時間以内、年間 360 時間以内の実現が最大の目標であり、それに向けて様々な取り組みを行っている。 1 つ目の「勤務時間の上限方針等の策定・検証」については、教育委員会

にて今年度の働き方改革の方針を決定し、各学校に通知及び指導をしている。取り組み方針としては①最終退勤時刻の遵守、②校内規程を運用しながら業務改善に取り組む、③学校評価・教員評価に働き方改革についても評価するの3つである。教員の勤務時間の上限等に関する方針としては、最終退勤時刻を小学校は19時、中学校は19時ただし部活動最盛期5月6月につきましては、20時とし、各学校にこの時刻内で設定を依頼している。

2つ目の「教職員の働き方改革に関わる保護者、地域への啓発活動の推進」については、学校教職員の働き方改革推進への理解と協力を依頼する文書を教育長名で保護者や関係者に配布した。内容としては学校行事の簡素化や廃止等も含めた見直しや、行事・大会の見直し、教育課程の工夫、各種お便り、教育活動の評価、電話対応の時間などの変更である。また、中学校については部活動の適正化について、週2日以上以上の休止日の設定とこれから始まる休日の部活動の地域移行の取組についても記載している。最後に保護者へのお願いとして、電話対応時間の制限とPTAの開始時刻の適正化についても記載している。

3つ目の「勤務実態の適正な把握」については、教職員が自らの勤務時間をPCに入力し、その内容を取りまとめ、管理職からの指導及び教育委員会へ情報提供を行うものである。

4つ目の「学校以外が担うべき業務の整理と分担による教職員の負担軽減」については、文部科学省より学校以外では担うべき業務と必ずしも教員が担う必要はない業務についての分類が示された。具体的には学校以外が担うべき業務は登下校の対応、補導された場合の対応、学校徴収金の管理、地域ボランティアとの連絡調整である。必ずしも教員が担う必要がない業務は休み時間の対応、部活動、清掃、調査統計の回答となっており、これらの業務をどのように教員から引き離していくかが課題である。これらの例の1つとして部活動指導員が挙げられ、国県市で費用を負担して、学校の部活動の指導にあたっていただいている。その他にスクールサポートスタッフが1名、先生の補助として教室に入っていただく特別支援アシスタントが40名などの人員配置をしている。

5つ目の「会議・調査・研修、地域行事やイベント等の精選や見直し」については、各学校での働き方改革に関する取り組みにおける、令和3年度の成果と課題及び令和4年度の取り組み内容について取りまとめを行っている。取り組み内容の例としては通知表の所見の見直しや会議回数の精選、ICTによる業務改善等が挙げられる。

6つ目の「ICTを働き方改革のツールとして活用することの推奨」については、昨夏より校務支援システム「C4th」を導入しており、出欠の管理、グループウェア、保護者への一斉メールの送信やアンケート等の機能があり、ICTを活用した業務改善につながっている。

7つ目の「休日部活動の地域移行」については、まず移行の背景は少子化と専門性のある職員の確保が困難であることが挙げられる。文部科学省が示した今後のスケジュールは、令和5年から令和7年については移行期間とし、令和8年から土日の部活動は完全に地域へ移行する。その後、進捗を

	見ながら平日についても移行を進めていく。移行については様々な課題があるため検討を進めていく。
大塚市長	ただいまの説明について、教育委員の皆さんからご質問、ご意見があればお聞かせいただきたい。
鈴木委員	学校別の時間外労働について、時間外労働が他に比べて多い学校が見受けられるが、どういった理由が考えられるのかお聞きしたい。
岩田管理指導主事	部活動や地域の皆さんとの地域活動を熱心に取り組んでいることが理由として考えられる。
教育長	部活動を非常に熱心に取り組んでいるため、指導にも多くの時間を要している。また、地域の文化保存会の活動についても地域が一生懸命取り組んでおり、発表会等に生徒が参加する際に職員が同行していることも理由として挙げられる。
新谷委員	学校別の時間外については、土日の活動や自主的に生徒の活動を見に行く時間も含まれているのか。
岩田管理指導主事	含まれている。
和田委員	学校別の時間外の中に PTA 活動の時間も含まれていて、手当も出るのか。
岩田管理指導主事	時間外に含まれているが無償である。
和田委員	では「教職員の働き方改革に関わる保護者、地域への啓発活動の推進」における PTA の開始時刻の適正化については、時間外労働の時間を減らすというよりも、先生方の負担を減らすための取り組みという認識で良いか。
教育長	従来であれば PTA は 19 時から開始が多かったが、保護者に 17 時半などに開始時間を早めることを依頼することで、職員の時間外及び負担軽減につながっている。
大塚市長	PTA 行事实施のための準備等も時間外の中に含まれているのか。
教育長	準備等も含まれている。
大塚市長	吉井委員は現場のこと良くご存じだと思うが、ご質問、ご意見があればお聞かせいただきたい。
吉井委員	<p>良いと思われる取り組みとしては、電話対応時間の制限について保護者に対してお便りを出したことはすごくありがたいと思う。若い職員で学級担任をしていて、18 時頃に帰宅しようと思った時に保護者から問い合わせや、放課後学童保育でのトラブルについての聞き取りの依頼などの電話が大体夕方に入ってくる。それが 1 回ではなく複数回重なってくると、職員の元気もなくなってくる。連絡いただくことは決して悪いことではないが、毎日そういった連絡があり、帰宅時間が遅くなり気持ちも沈んでしまうと、精神的ダメージにもつながってしまうので、時間を区切るということは良いと思う。</p> <p>ただ、職員の勤務時間は本来 16 時 45 分であるが、中学校では 19 時まで受け付けることになっている。折り合いをつけた結果だと思うが、少しずつ時間外の削減に向けて前進していったほしいなと願っている。</p>
大塚市長	教育委員会からの様々な指導により、少しずつは時間外勤務が減りつつあるという受け止め方で良いか。

岩田管理指導主事	<p>時間外労働が月 80 時間を超える人を減らすことは昨年から各学校に依頼しており、中学校ではかなり減っているが、小学校では微増している。</p> <p>仕事の分担等を行い、突出した時間外労働を行っている職員が出ないように各学校に取り組んでおり、そういった職員は減少しており成果が出てきている。</p>
鈴木委員	<p>学校訪問してみると特に若い職員は事前準備をすることで、学級運営が円滑にいくということもあり、生徒のことを考えて様々なことに取り組んでいると思う。最終退勤時刻を制限することで、そういった職員の方の意欲を削いでしまっている気がする。退勤時刻を制限することが嬉しい方と困る職員の方も多くいると思われるがいかがか。</p>
岩田管理指導主事	<p>どちらもいると思われる。帰りづらい雰囲気のところであれば制限してもらいたいと思っている職員もいると思われる。鈴木委員からご指摘いただいたように意欲ある職員にとっては残念と思われるかもしれない。</p>
教育長	<p>制限はあくまで目安ではあるが、授業の事前準備はやろうと思うと時間がいくらあっても足りないため、制限をすることは良いと思う。</p>
大塚市長	<p>行政も同様だが、業務の棚卸をして業務の内容及び種類、業務の必要性について見直しを行っている。学校行事も同様だと思う。以前より伝統的に行っていて、やめられない行事もあるかと思うので何かの機会に話し合いを行うのも良いのではないか。</p>
和田委員	<p>時間外勤務についてはどれだけ行っても給料が変わらないことについては、職員のなり手不足や教えている生徒にも影響を及ぼすと思うがいかがか。</p>
教育長	<p>教員の場合、時間外手当はなく、それに代わるものとして基本給の一定割合が支給されている。先ほどお話しした通り、授業の事前準備等はやろうと思うと時間がいくらあっても足りないため、時間外労働に該当するか区別が難しい。</p>
大塚市長	<p>この場で物事を解決することは難しいが、引き続き働きやすい職場になるよう、皆様からご議論や校長会等でも共通認識をしていただき、様々な取り組みをしていただきたい。</p> <p>他に意見等はないか。(なし)</p>
大塚市長	<p>(2)「小千谷の学校教育」について 議題(2)について、事務局より説明をお願いしたい。</p>
長谷川学校教育課長	<p>市長からのあいさつにもあった通り、今回総合教育会議の議題について教育委員の皆様から協議をしていただいた。教育委員の皆様から退任される市長から教育に対する願いや思いをぜひ聞いてみたいとお話があったため今回提案をさせていただいた。</p>
大塚市長	<p>私は市長を 8 年間務めさせていただいたが、教育者ではないため、本日は私が読んだ書籍等の内容から、なぜ学ばなければいけないのかということについて紹介したい。</p> <p>まず私の願いは子供達が大人になった時に、小千谷を思い、良くしたいという気持ちを持って育ち、巣立って行ってほしいと思う。そういう意味では</p>

	<p>ふるさと教育を柱に据えさせていただいたことは、私としては嬉しかった。</p> <p>ここ数年、市内の高校に声をかけていただいて、小千谷市について色々話した後になぜ学ばなければいけないのか、どういう人間に育ててほしいかを話しをさせていただいている。</p> <p>なぜ学ばなければいけないのかは、生徒のうちは分からず、大人になって初めて分かると書かれていた。例えば因数分解の場合、数式を覚えてもそれを仕事に活用することはほとんどなく、共通するものを見つけ、まとめることで仕事が便利になる、簡単にすることができるということを学ぶと書いてあった。大事なことは、学んだことを社会の中でどのように活かすかというのが教育だと思う。</p> <p>もう1つは学校に行き、先生や友人と関わる中で何か面白いことが1つあれば、そこから膨らませながら勉強ができ、色々展開できるということである。</p> <p>また、小学生は大人や先生が保護をして、導く対象であるため児童と呼ばれ、中学生や高校生は先生から様々なことを学んでいく時期であるため生徒と呼ばれる。大学生や専門学生は自ら学ぶ生き方をするため学生と呼ばれ、卒業後のことを考え、自ら何を学ぶかを選んで見つけ出していくと書かれていた。</p> <p>私も経験から学生よりも社会の方が様々なことを学ばないと、時代の変化についていくことが難しいと感じている。そういった意味では小学校から高校までは学ぶための基礎を学んでいると思っている。私が市役所に入庁した時は、読み書きとそろばんができれば良かったが、現在はパソコンやスマートフォンに変わるなど、時代の変化に対して我々が学んだことが今の世の中で通用しない時代になっている。今の子供達が20年、30年経った時の変化を考えると、学び続けないと時代についていけないと思っている。</p> <p>最後に私が市役所の職員時代に感銘を受けた先生がおっしゃっていた、全国の地方自治体を歩いてみて公務員としてどういう人になってほしいかという内容である。「よき人柄」を持った人間に育ててほしいとおっしゃっており、「よき人柄」とは「自他に誠実で、明朗な性格を持ち、度量が大きく、豊かな関心の持ち主」と書かれている。「誠実」とは相手の立場や心情を慮るとともに、自分の気持ちにも正直なこと。「明朗」とは物事にウジウジしたこだわりがなく、性質が明るく、ユーモアの精神に富んでいること。「度量が大きい」とは「他人の言動を一概に否定することなく受容する心の広さ、おおらかさ、懐の深さ。「豊かな関心」とはさまざまな事柄に豊かな関心を持ち、問題を発見し、進取の気性を備えていること。」と書かれており、こう言った方が公務員に向いているとおっしゃっている。ですので、よき人柄もった人が多く集まった職場は良い仕事ができると思っている。私は教育の最終的な目標としてはこういった子供達をたくさん作ってほしいと思う。</p> <p>皆さんからご質問、ご意見があればお聞かせいただきたい。</p>
教 育 長	私は知徳体のうち社会の中で1番重要なのは徳育だと考えている。企業

	<p>が欲しい人柄は何かというアンケートでは、1番はコミュニケーション能力、2番は想像力であった。今お話しいただいた徳育の内容の通り、豊かな心を持ってもらうかに尽きると思う。</p>
鈴木委員	<p>私が見る限りでは、今の子供達は物事に耐える力が段々小さくなってきていると感じている。昔であれば一家の中でテレビのチャンネル争いがあったが、今は録画して好きな時に見ることができる。学校に行っても競争を避ける風潮があり、自分が上に上がっていくチャンスや競争によるストレスも経験していないため、就職して3年間で約5割が転職しており、転職の理由も上司に耐えられないなどが多く聞かれる。今の子供達が少し脆弱化してきているのに加えて、少子化の進行により高齢者1人あたりを支える人数も減ってきている。これからの小千谷市の10、20年後に私達が高齢者になり、今の子供達にお世話になる時代を見渡した時に市長はどう感じているのか。</p>
大塚市長	<p>希望を感じないといけないと思っており、特に私のような仕事をする人にとっては、そういった社会に変えていかないといけないし、様々なことを通じて伝え、子供たちを育ててほしいなと思っている。</p> <p>原因としては少子化だと思っており、家の中でも兄弟喧嘩をする相手もない、近所で子供達が危ないことをしていても保護者も近所の人も注意しなくなった。個を大事にし過ぎた結果、地域や人とのつながりが薄れているのではないか感じている。</p> <p>ルールの中で一定程度の不自由さはあっても良いと思っており、今はそれがなくなってしまい、地域内での関係の希薄化により、様々な問題が起こる社会が近くなっていると感じている。それらをどうにかしていくのが行政の役割であり、教育の役割でもあると思っている。</p> <p>他に意見等はないか。(なし)</p> <p>今回の総合教育会議については以上で終了とさせていただく。</p>
事務局	<p><b>4 その他</b></p> <p>例年開催している「おぢやしごと未来塾」を12月7日(水)開催する。今年も市内全中学校の1、2年生の生徒から参加いただく。見学も可能なため、教育委員の皆さまから見学の希望があれば会場受付までお越しいただきたい。</p>
	<p><b>5 閉会</b></p> <p>(終了 16:03)</p>